

(様式4)

## ◆ (氏名) 原 瑞穂

### <所属・職名>

上越教育大学大学院学校教育研究科・准教授

### <略歴>

2009年7月ー現在 上越教育大学, 准教授

2008年3月ー2009年6月 Korea University (高麗大学), Department of Japanese Language and Literature, Associate Professor

### <これまでの研究活動、外国人児童生徒等教育に関する経験など>

Korea University Associate Professor を経て、現職。2010年度より本学国際交流推進センターに「外国につながる子どもたちへの修学支援事業」を立ち上げ、地域の教育委員会や学校、国際交流協会と連携協力しながら、文化的言語的に多様な子どもたちの日本語と継承語の学習や教科等の学習のための支援を実施、体制づくりに従事してきた。“文化的言語的に多様な経験”をしたことのない者にとって、子どもたちが内包する思いや困難に思いを巡らせて日々の教育活動に組みこんでいくことは難しい。大学では、教員養成および育成にかかわり、多くの学校教員に子どもたちの状況を理解した上で教育活動をデザインしてもらえるよう体験的および二人称的アプローチを取り入れた授業や研修のあり方を探究しながら実践している。文化的言語的に多様な子どもたちの教育保障および教育支援の体制構築において、「少数散在地域」の大学や教育委員会、学校、地域にどのようなことができるのかについて共に考え、アドバイスします。

### <対応可能学校種>

小学校 中学校 大学

### <遠隔での指導助言> ※いずれかの□にチェックを記入してください。

対応可  対応不可

### <その他(国等の委員歴等)>

2018年 公益社団法人日本語教育学会文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」2018年度大学における養成・授業検証協力者

2020年 公益社団法人日本語教育学会2020年度文化庁受託「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」「子どものための日本語教育研修ー子ども初任コース/講師育成コース」講師

### <関連URL>

[https://www.juen.ac.jp/gkk-edupart/pro\\_hara.html](https://www.juen.ac.jp/gkk-edupart/pro_hara.html)

<http://staff.juen.ac.jp/profile/ja.2b9694630f02c0f060392a0d922b9077.html>

### <講師として担当可能な内容>

別紙「講師として担当可能な内容(モデルプログラム「養成・研修の内容構成」対応)」のA～Nの書く欄に、◎または○を付けてください。

※別紙に○を付けていただいた内容は、一覧表に整理して文部科学省ホームページに掲載いたします。

※ 本様式は文部科学省ホームページに掲載いたします。



母文化・アイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイリンガリズム</li> <li>・言語環境</li> <li>○アイデンティティ</li> <li>・アイデンティティの動態性・多面性</li> <li>○母語／継承語教育</li> <li>・家族とのコミュニケーション</li> <li>・母語保持・伸長の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの言語の関係 (二言語相互依存仮説)</li> <li>・言語の使い分け</li> <li>・母語・母文化とアイデンティティ</li> <li>・認知面の支えとしての母語</li> </ul> <p style="text-align: right;">◎ ◎</p>
F 言語と認知の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの言語発達</li> <li>・一次的ことばと二次のことば</li> <li>・第二言語習得のプロセス (沈黙期、チャンク等)</li> <li>○言語能力の捉え方</li> <li>・コミュニケーション能力</li> <li>○言語能力の測定法</li> <li>・言語テストの目的、実施方法、結果の活用</li> <li>・言語能力測定ツール (文部科学省「JSL 児童生徒のための対話型アセスメント (DLA)」)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・萌芽的リテラシー</li> <li>・ことばと思考</li> <li>・言語発達と発達障害、学習障害</li> <li>・言語の四技能</li> <li>・生活言語能力と学習言語能力</li> </ul> <p style="text-align: right;">◎ ◎ ○</p>
G 日本語の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語としての日本語</li> <li>○文章・談話</li> <li>○場面とことば</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音韻、文字・表記、語彙、文法</li> <li>・学校文法との違い</li> <li>・諸言語との対照</li> <li>・ジャンルと文体</li> <li>・ことばの機能</li> <li>・表現の意図</li> <li>・結束性</li> <li>・言語使用域</li> <li>・敬語</li> <li>・話しことばと書きことば</li> <li>・共通語と方言</li> <li>・ことばの性差</li> </ul> <p style="text-align: right;">○ ○ ○</p>
H 子どもの日本語教育の理論と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語指導の内容 (シラバス)</li> <li>○言語教育の考え方と方法</li> <li>○学習活動</li> <li>○教材・教具 (リソース) の利用と作成</li> <li>○教科の指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造 (文型)、場面、トピック、機能 等</li> <li>・オーディオリンガル・アプローチとコミュニカティブ・アプローチ</li> <li>・内容 (教科等) と言語 (日本語) の統合学習 (文部科学省「JSL カリキュラム」)</li> <li>・認知プロセスにもとづく読み・書きの指導</li> <li>・文型練習 (パターン・プラクティス等)</li> <li>・意味を重視した活動 (タスク、ロールプレイ、プロジェクトワーク等)</li> <li>・教材の分析</li> <li>・教材の作成 (補助教材・ワークシート・リライト教材等)</li> <li>・メディアの活用</li> <li>・知的財産権・著作権</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」</li> <li>・授業のことば</li> </ul> <p style="text-align: right;">○ ○ ○ ○ ○ ○</p>
I 日本語指導の計画と実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語のコース設計の手順</li> <li>○日本語プログラム</li> <li>○指導計画の作成</li> <li>○模擬授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握 (学習歴、出身国の教育内容、日本語の力、教科の力、学習環境)</li> <li>・目標設定と指導内容の決定</li> <li>・サバイバル、日本語基礎、技能別日本語、内容と日本語の統合学習「JSL カリキュラム」)</li> <li>・キャリア教育、人権教育、国際理解教育等とのクロスカリキュラム</li> <li>・年間指導計画の作成</li> <li>・日本語プログラムの組み合わせ</li> <li>・模擬授業の学習指導案の作成</li> </ul> <p style="text-align: right;">○ ◎ ○ ○</p>
J 在籍学級での学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習参加のための支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキヤフオールディング (足場かけ 例: 「JSL カリキュラム中学校編」日本語支援</li> </ul> <p style="text-align: right;">○</p>

